人文知探訪プログラム 古代吉備の国レポート

令和5年6月10日(土)開催

① こうもり塚 P2

②造山古墳　千足古墳 P5

③児島塊太郎窯元　作山古墳を眺望 P14

④精進料理金亀　井山宝福寺散策 P17

⑤鬼の城　西門 P19

９：３０こうもり塚古墳へ

吉備路もてなしの館からこうもり塚古墳まで、ボランティアガイドの板野様に解説をしていただきました。

板野氏「本日はどうぞよろしくお願いいたします。まずは古墳時代のお話をいたします。西暦でいうと250年頃から400年ほど続いています。箸墓古墳という有名な古墳もありますね。古墳時代という言い方も長い時代の間にいつのまにか古墳時代になっていたというのが正確なところです。ミシュランの星1つがついたのが、ここ総社にある古墳ですね。それではご案内いたしましょう」

散策中に見える備中国分寺、五重塔についても説明いただきました。

板野氏「国分寺という名がつく所は全国にもありますが、
その中でも現在この五重塔があるところはここしかありません。国分寺は疫病を抑えるため仏教の力で国を守ろうとする鎮護国家という考え方のもとで建てられました」

「古墳は全国で16万基ございます。岡山県では1万2千基の古墳があります。ここ総社市には1900基の古墳があると確認されています。調査が進めば進むほど見つかるかもしれません。最近では吉野ケ里遺跡ですごい発見があったと話題になっていますし、造山古墳でも新たな発見がされていますね。

　あちらがこうもり塚古墳でございます。長さが約100メートル、2段構築の前方後円墳です。雨がよく降っていますので石室内が濡れていると思いますが本日は肌で感じてほしいと思います」

　こうもり塚古墳の案内板前で詳しい説明を聞きました。参加者も熱心に聴き入ります。

　板野氏「令和2年度から学術調査も入っています。実際の墳長が97メートル程ではないかと言われているようですね。古墳の特徴としては前方後円墳、斜面の崩れを防ぐ葺石はありません。埴輪も見つかっていません。亡くなられた方を安置する場所は玄室といいます。

　この古墳が出来た頃は国内で2番目に大きな古墳だったと考えられ、その後九州にも大きな古墳がつくられましたので全国で3番目に大きな横穴式石室をもつ古墳と言われています。奈良の石舞台古墳に葬られているだろう蘇我馬子の父、蘇我稲目という方が吉備に三宅をつくったと言われるのが西暦500年の中頃になります。蘇我親子も吉備を訪ねていたということで、ここに葬られている方も恐らく繋がりがあったのだろうと言われています。当時の天皇は欽明天皇ですから、その欽明天皇とも繋がりがある有力豪族だったろうと考えられます」

　石室内で見つかった副葬品や装飾品についても説明がありました。日本史の教科書で覚えた豪族や天皇家とも繋がりを感じられ、一同感心の表情です。

板野氏「ここは昔、黒媛塚と呼ばれていました。黒媛は仁徳天皇のお妃です。その黒媛の墓ではないかと言われていましたが、実際は100年以上歴史が隔たっているので、中にこうもりがいるからこうもり塚、また籠り塚というところからこうもり塚古墳と呼ばれるようになったそうです」

滅多に見学することがない石室内に入ります。中はひんやりとした空気でうす暗く、玄室の大きな石に圧倒されます。

板野氏「正面に鏡石というものが1枚あります。特徴としては大きな一枚石、そしてまぐさ石ですね。中央にあるのが貝殻石灰岩で浪形石とも言われる石棺です。

一体どのようにして造ったのでしょうね。重機もないですし機械と呼べるものはない時代です。当時は丸太、石、縄しかありません。自然丘陵をよく見て利用しているのです」

参加者「石棺の中にはなにか入っているのでしょうか」

板野氏「中はね、現在は子どもたちがいれた松ぼっくりが入っています。もとはご遺体が安置されていたはずですがそれらしきものは見つかっていません。このように雨が入って水たまりができる場所ですから仕方ありませんね」

１０：００　バス移動　造山、千足古墳へ向けて出発

今回は美袋交通様の協力のもとバスで各地をまわります。

移動中は谷一館長に古代吉備についての講義をしていただく贅沢な時間です。

谷一館長「国内で大きな古墳のうち4番目と10番目が岡山にあります。1番目から3番目の古墳はすべて大阪府にあります。次のガイドさんが解説してくださると思いますが、豪族たちの力の差も古墳の作り方でわかるのです。もう造山古墳に到着しますから戻ってきたら改めて話をします」

１０：１０　造山古墳

ビジターセンターに到着し、造山古墳へ向かう前にボランティアガイドの難波様に解説をしていただきました。

難波氏「本日はどうぞ宜しくお願いいたします。人文知ってとてもいい言葉ですよね。人という言葉、たとえばその遺跡にどのような人が関連しているのか、その人の背景や歴史がどのように影響したのかを考えるのは大好きです。限られた時間の中ですが、人文知ということで人と文化に着目して解説したいと思います」

難波氏　「本日探訪される中で一番歴史が古いのが、この造山古墳です。そして千足古墳ができて、すぐ後に作山古墳、こうもり塚古墳と続きます。年代として造山古墳ができたのは西暦410年から420年頃。千足古墳は430年頃です。作山古墳は西暦440年から450年頃と言われています。こうもり塚は100年くらい後ですね。ここをつくっている文化とこうもり塚古墳は文化がガラッと変わります。よく観光の方が石室はどこにあるのとおっしゃいますが、ありません。竪穴式石室ですからこうもり塚古墳の横穴石室とは異なります。日本に仏教が入ってくる前後で文化が大きく変わるわけです。鬼の城は680年から700年頃で白村江の戦いがあった後になります。年代的な流れを頭に入れて歩いていただくと文化の異なりを感じていただけると思います。ちなみに邪馬台国の卑弥呼が活躍したと言われているのが西暦200年から250年頃、聖徳太子が活躍したのが西暦600年頃です。その真ん中が西暦400年頃ですからまさにそのころ造山古墳ができました。前方後円墳は後円部の部分が大切で、その地下深くに主が眠っています。発掘調査はまだしていません。1600年間くらい眠っている可能性があります。では造山古墳の主はどのような人だったのでしょう」

ガイド様の背後には、まるで大きな森のように、丘のように、造山古墳がそびえています。

「大阪の百舌鳥・古市古墳群に大きな古墳がたくさんあります。全国3番目までがここにあります。1番目の仁徳天皇陵と2番目の応神天皇陵はこの造山古墳より後にできています。応神天皇陵は作山古墳と同じ西暦440年頃に出来たと考えられており、その後に仁徳天皇陵が出来たと言われています。ということは、造山古墳が出来たころには1番2番の古墳はまだこの世になかったということになります。3番目の履中天皇陵は造山古墳とほぼ同じ時に出来ます。同時期に大阪と岡山で約350メートルの大きな古墳がつくられるのです。ひょっとしたら古代吉備にある造山古墳は当時1番大きかったのかもしれません。ではそれを造ったのは何者か。3番目までの天皇は日本書紀や古事記に名前が出てきますが造山古墳の主の名前はわかりません。周囲には6つの古墳がありまして1号墳と5号墳から宝が見つかりました。そこから造山古墳はどのような人物がつくったのか想像ができるようになってきました。朝鮮半島のものがたくさん出土したのですね。千足古墳には当時まだ無かっただろう横穴が出てきます。九州熊本県の天草砂岩も見つかりました。色々なものが組み合わさって出てきていますね。1号墳には朝鮮半島の加耶のものばかり発見されました。加耶は当時、鉄の大生産地です。まだ日本でたたら製鉄のような鉄をつくっていない時代です。それらを総合すると、この巨大な前方後円墳を造ることができた実力者の背景が考えられますし、そのような人物がここ岡山に先輩としていた、という事実がより感じられます。それでは造山古墳へ行きましょう」

吉備の細道をぬけて造山古墳を上ります

吉備の細い裏道をぬけて造山古墳を上ります。

設置されている階段1段の深さや、上りきった後の疲労感で造山古墳がいかに大きく高さのある古墳か実感できました。

難波氏「古墳の上が平べったいですよね。ここの真ん中に造山古墳の主が眠っています。

あちらでは円筒埴輪や家型埴輪などを並べ埋葬儀式をします。この儀式を執り仕切るのは次の偉い人です。これだけの規模ですから多くの来賓がいたでしょう。前方部の上で特別な儀式、つまり次期大王は自分だという継承儀式をしました。ただのお墓ではなく特別な舞台装置でもあったのではないかと言われています。

「そこまで考えると当時の人々が何を考えてどういったことをしようと思ったのか想像できますね」

造山古墳からは岡山の景色が一望でき、吉備の穴海についても教わりました。

造山古墳からの眺望

難波氏「ここに荒神様を祀る神社がありまして、江戸時代にできました。

文化文政の時代、この荒神様が出来た時に前方部から石棺が出たという地元のおばあちゃん伝承が残っています。この石棺があちらにあるものです。ここに段がついていますが石枕です。この石は九州の阿蘇山が大爆発して流れ出た溶岩が固まってできたものです。年代は西暦450年頃ではないかということで、造山古墳ができた数十年後に追葬として別の方が葬られたのではないかと考えられます」

難波氏「石棺の蓋が壊れてここにあります。あれも欠片ですね」

Let’s take a group picture!

探訪ツアーの最中、たまたま造山古墳を見学に来ていらっしゃった一般の方も、ガイド様のお話を熱心に聴かれていました。

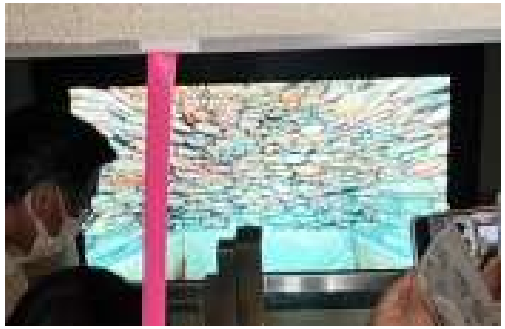
集合写真の撮影前「とても勉強になるツアーのようなので勝手に後ろをついて来させてもらいました。御礼とは言えませんがよければお撮りしますよ」とお心遣いをいただきました。

Thank you♡(^^)/

１１：００　　千足古墳へ

　千足古墳は造山古墳の陪塚で14年がかりの保護・復元作業がなされました。墳丘や石室を復元整備し2023年4月30日から全面公開されたばかりです。

　造山古墳から歩いてすぐの千足古墳、まずは後円部のトンネルから装飾石室を見学しました。



　難波氏「こちらが石室です。モニターもあり中がぐるりと見えます。天井石もすべて本物で、白っぽく見えるところは直弧文があるところですがレプリカです。古代文様を間近で見られます」

　谷一館長「直弧文についてはバス移動中に詳しく説明しますね」

　数名ずつ石室を見学したあとは墳丘上に並べられた埴輪を見たり造山古墳を眺めたり、整備された千足古墳を楽しみました。

岡山市長大森雅夫様ご夫妻との偶然の出会い

　全員で集合写真を撮ろうかという頃、ツアー参加者とは別に階段を上って来られた方が。
なんと、岡山市長の大森雅夫様ご夫妻でした。お休みの日に千足古墳へ足を運ばれたそうで偶然の出会いです。
　谷一館長「古代吉備の長について学んでいたところで現在の岡山の長に出会えるなんて幸運ですね」
全員での記念撮影にも快く応じてくださったほか、古代吉備についても熱く語っていただきました。

　大森市長「吉備国というのは奥深くて、たとえば熊本から少し行ったところの国造のもとへ吉備の人間が行っているのです。四国や他の場所にも吉備から派遣しているわけです。完全な任命権があったかわ分からないけれど、各地への派遣を決定する力がある者が吉備にいた。それを追求する対談も予定しているのでご関心ある方はぜひ聞いてくださいね」

　谷一館長「もの凄く新しい発想というか新説ですよ。きちんと根拠を持った新説を列挙されていますからすばらしいです。岡山市、倉敷市、総社市と一緒にできればいいですよね。本日は偶然いらした所でお時間を頂戴し本当にありがとうございました」

千足古墳からビジターセンターへ戻る道中、色々な質問が飛び交います。難波氏には吉備の穴海やそれにまつわる人の集まり、吉備という拠点の重要性についても解説いただきました。

このあとビジターセンターを出発し、バス移動中に講義を聴きます。

最初に探訪したこうもり塚古墳について、石材すべて花崗岩、表面に赤色顔料を塗った跡、石棺が浪形石のほか陶棺の一部を発見、木棺使用鉄釘から複数の埋葬品ということを学びました。

谷一館長「鉄製品を納入しているところは古代吉備国に限ります。奈良時代もそうですね。そのあと4つの国（備前・備中・備後・美作）に分かれますが、ここしか奈良時代に鉄を税金として納めていないというくらいです。大陸から鉄の生産技術を持ってやってきたのですね。そしてさらに大和政権が蘇我氏を吉備に送りこんで屯倉(三宅)の財政基盤を固めたのです」

１１：４５　児島塊太郎先生の窯元へと急ぎます

洋画家児島虎次郎の孫であり陶芸家・芸術家の児島塊太郎先生の窯元へ訪問しました。

出迎えてくださったお宅には織部のうつくしい焼物が数多く並び、すばらしい深緑の造形に参加者一同見惚れるばかりです。

児島先生が造られた織部の湯呑で冷たい麦茶とお菓子をいただきます。

児島先生「みなさま、蒸し暑い中をようこそお越しくださいました。児島塊太郎と申しまして、このようなお湯呑みをつくっております。3月に倉敷で展覧会をしました。この表紙の女性は小野小町です。軽部神社のたらちねの桜がある神社で小野小町が生まれたと言われていますね。児島虎次郎もたらちねの桜を春の題として屏風を制作しており、そういう歴史的なことも聞いていますので春風という題で小野小町をイメージした作品です。

私は旅しながら色々な作品をつくってきて、ヨーロッパからアメリカから中国、ずっと旅をしてものをつくるようにしてきました。コロナ禍でどこにも行けなくなってからは近いところやこの周りを散歩して感覚的なものも含めて作品をつくるようになりました。この裏に自分自身が育てたバラ、桜、クレマチスなどをスケッチして絵にしてきました。今も続けていますがそろそろ旅もしていこうかと思っています」展覧会のリーフレットにも、繊細な花々が描かれた陶画が載っていました。

1981年にここへ窯をついています。2年かけて作業場や窯場を造り窯開きしました。42年間の歴史を刻んでいますが、谷一館長とはずいぶん昔からお付き合いがあります。

谷一館長「成羽美術館の理事長をしていただいていますね」

児島先生「様々な方からいろんなことを学んできて今があると思っています。自分が一番気になっていることは、総社市に美術館が無いのです。これだけ歴史ある場所で雪舟もいたところなのに立派な美術館がない。これは残念なことです。ですが今日はその雪舟について伝説が残る宝福寺へ一緒に行って食事ができるということで楽しみにしています」

ろくろがある作業場や窯場の見学をさせていただきました

児島先生「ふつう1階にろくろ場がありますが私のところは2階にあります。立ってろくろをひいています。そんな人は多分いないでしょうね」

谷一館長「あちらには作山古墳が目の前に見えますね」

児島先生「ちょうど東を向いているのですね。家は南に向けないといけないのですがここは工房なので正面に作山古墳が見えるよう建てたのです。本当に素敵な場所です。昔はここまで木が大きくなかったので五重塔も先が見えていたのですが今は見えなくなっちゃいました。ちなみに土は赤土が取れます」

谷一館長「埴輪の土はここらで取れていたのでしょう」

児島先生「破片も出てきますから、この辺で埴輪を焼いていたんじゃないかと思うのです。人間の力で火の温度を高めるのは限界があって、やはり空気や環境というのが重要ですからここで1200度が達成できる環境であると判断して古代の人も作業する場所を決めたと思います。私がここに窯を開いたのもそういう理由があってのことです。南北に風が吹くのでその風に合わせて窯の温度を上げていきます。風の動きに合わせて温度を上げたりキープしたりする。その理屈をわかっていないと失敗しますね」

現代のやきもののみならず、埴輪をふくめた焼きもの、鉄製造にも古代の人々の知恵が表れます。自然の力を借りながら生きていく姿に思いを馳せました。

参加者、企画委員は児島先生作のお湯呑みやお皿が、あまりにも素敵だったので買い求めました。

１２：３０　井山宝福寺にある精進料理金亀様にて昼食

雪舟が涙で鼠の絵を描いたという伝説が残るお寺のそばで美味しい料理に舌鼓。

「人文知」を考える
大原謙一郎著
発行日：2023年４月20日

食後には参加者おひとりずつ今回の探訪の感想や人文知への想いを語っていただきました。

事務局長から大原代表理事著の書籍発行のご紹介もありました。

事務局で購入できます。(500円税込)

１３：５０　宝福寺出発　鬼ノ城へ向かいます

本日探訪した古墳の復習とさらに詳しい知識を谷一館長から学びます。

谷一館長「日本の古墳は雨が多いので、石棺までは残ってもご遺体まではほとんど残りません。副葬品も多くはないですが装身具や太刀が残っている場合もあります。ですが風化していることも多いですね。一番いいのは中国の墳墓のように文字が出てくると色々なことがわかってきます。鉄剣に象嵌があることや文字があったことで歴史的発見に至ることもありますが文字がないと被葬者などは分かりにくいのが実情です。

日本書紀によると大和朝廷と吉備も一枚岩ではなかったようですね。ただ吉備の場合は大和朝廷にあまり反抗はせず従順にしていた首長が多かったのではないかと言われています。

直弧文については、造山古墳第5陪塚の千足古墳は帆立貝式の古墳にて見つかっていますね」

１４：２０　　鬼ノ城西門をめざして

　再度、ボランティアガイドの板野様に、お越しいただいて鬼ノ城を案内していただきました。

　板野氏「2001年から10年間かけて10億円の予算を国からいただいて整備されています。古代山城で保存状況が非常に良いという点から復元されました。この鬼ノ城は標高400メートルです。花崗岩がごろごろしていますが、これを使って鬼ノ城ができたと考えられていますし桃太郎伝説の温羅はこの石を投げたという伝説がありますね。鬼の弾薬庫であります」
　遊歩道はとても歩きやすく整備されていました。ウッドデッキからは総社平野、岡山の景色が一望できる気持ちのよい場所です。「あちらが西門、それから角楼が見えています。お天気がよければもっと遠くまで見えますよ」

きびたんごを手に、
全員で西門へ
向かって歩きます。

板野氏「鬼ノ城が出来た背景を申します。飛鳥時代、倭国と百済が同盟関係を結んでいました。新羅と唐も同盟関係でした。この百済と新羅が戦っており倭国に応援を求めます。斉明天皇の子である中大兄皇子がこの戦いの指揮を執ります。663年、白村江の戦いがあり3日ほどで完敗しました。唐と新羅の軍が倭国に攻め入ってきては困るということで瀬戸内海一帯と北九州に防御用の城を建てたのが古代山城です。日本書紀などの文献に出てくる山城は朝鮮式山城と言いますが鬼ノ城は名前が載っていません。発見については昭和46年に山火事があり岡山県の考古学研究者が石垣を見つけたのがはじまりです。門は4つあります。敵が攻めてきたときに籠城するための避難場所ですね。実際は避難も籠城もなく終わったようです」

山城として造られた水門、道具の製作場、高床式倉庫の礎石跡についても教わります。

参加者「遺っている石垣ってどの程度が再現になるのでしょうか」

板野氏「復元は6ヶ所ありますがすべて当時そのままですね。それ以外は復元していないです。復元しているのはこちらの版築土塁です。2004年頃に復元されましたが風雨にさらされますのですこし崩れてきています。

こちらは列石です。雨が流れやすいようにした敷石もあり、これがある山城は鬼ノ城のみです。ほとんどが当時の石そのままですが、当時のものでない石には×印がついています」

参加者から驚きの声があがります。

板野氏「×印がない石は当時のままですからね。アプライトという石です」

西門についても詳しい解説を聴きました。

板野氏「本当に保存状態がいいというのは西門でもよくわかると思います。大体7世紀中ごろの建物ですが急いで建造しています。1000人の方が365日働いて3年かかったと言われていますから突貫工事です。ということは吉備は工事する方のおなかを満たしてあげる力と環境であったということがわかりますね。もしかすると大和朝廷は吉備の力を落とそうと考えたかもしれません。吉備と大和は仲良くなったり疎遠になったりの繰り返しです」

「西門の中の石、みなさまが今立っている石もそのままの姿です。12本の柱と大きな石があったのです。柱のこの部分は復元の時に削ったわけではなく最初から削ってあったのですね。鍛冶工房で鉄があったので削れたのでしょう。こちらは全体1枚の石を削って段をつけているのです。そのような技術があったということです。城内の敷石も非常に立派です」

板野氏「こちらは角楼跡です。古代山城で角楼があるのは鬼ノ城のみとなります。ここは見張り台ということで、敵から死角になる場所から攻撃できるように見張るということで角楼になっています。ここと西門の間が60メートルあります。ちょうど、どちらからも弓矢で敵に届く距離ですね。お天気がよければもっと景色がいいのですが」「角楼を下りてもらったここ、ちょうどそこからアスファルトの色が変わっています。ここは城壁があったのです。今は歩けるように開いていますが当時は城壁があって閉じられていました」

参加者「今の時代だと鄙びた場所にあるように思えますが、当時は貿易などの要衝に近いお城ということだったのでしょうか」

板野氏「そうですね。吉備国の中枢ですしその中枢がよく見える場所に鬼ノ城はつくられたということです」

おわりに、鬼城山ビジターセンター内の展示資料なども見学。桃太郎伝説と実際の吉備国の姿を切り離して歴史を確認しました。

１５：３０　帰路の車中で

すべての行程が無事終了。

総社駅へ向かう帰路で、谷一館長の古代に関するお話と今後の探訪プログラム予定が説明されました。

参加者のみなさまからは「古代吉備がここまで力のある場所だと思っていなかった。とても勉強になりました」「古墳や山城ができた背景を知ることで当時の人々の考え方や暮らしまで想像することができました」とご好評の声を頂戴しました。

身近にある史跡を歴史ロマンと一言で終わらせるのはもったいないことで、古代の人々から連綿とつながる思想が現在の私たちになにを語るか、現在の私たちが今後どのようにこの史跡と風景を守り継いでいくのか考えていきたいと思う一日となりました。

ご協力いただきありがとうございました

　美袋交通様、ボランティアガイドの板野様と難波様、児島塊太郎様、大森岡山市長様をはじめ
今回の探訪にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。